

19世紀メルボルンの ハーリングに関する研究

the Age, the Argus, the Heraldの
記事から

榎本雅之

Masayuki Enomoto

滋賀大学 経済学部 / 准教授

スティックとボールを用いて行うアイルランドの民族的娯楽 (national pastimes) であるハーリングは、1884年のGAA (the Gaelic Athletic Association) 設立以降、ルールの成文化や全アイルランド選手権大会の開催などが行われ、近代スポーツ化が進んだ¹⁾。GAA設立以前のハーリングは様々な競技形式で行われていた。それは、アイルランド島内にとどまらず、アメリカやオーストラリアなどへ移住した人々によっても行われた²⁾。

アイルランド移民によるハーリングに関して、榎本はメルボルンで1844年と1845年のオグリムの戦いの日 (the day of the battle of Aughrim: 7月12日) に行われた試合について明らかにした。このハーリングは、純粋なスポーツ活動というよりも、プロテスタントの人々のパレードをアイルランド・カトリックの人々が妨害するために企画された。新聞広告が出され、当日、試合の参加者や観衆など多くの人々を集め、パレードを妨害することに成功した³⁾。

オーストラリアでは、ハーリングのクラブが1870年代後半頃から結成されるようになる。ヴィクトリア州に誕生したハーリングクラブは、1878年にヴィ

1) BURCA, Marcus de, *The GAA, A History*, Gill and Macmillan, 2000.

2) KING, J. Seamus, *The Clash of the Ash in Foreign Fields: Hurling Abroad*, Private version, 1998.

3) 榎本雅之『『草創期メルボルンの年代記 (1835-1852)』にみるハーリング』彦根論叢417号、2018年、36-47頁。

クトリア州ハーリング協会 (the Victorian Hurling Association、以下VHA) を設立し、植民地でのゲームの規則を作った。ハーリングは、1872年以後のオーストラリアにおいて、ハイバーニアン・オーストラリアン・カトリック共済会 (the Hibernian Australian Catholic Benefit Society、以下、HACBS) によって運営された聖パトリック⁴⁾の日(3月17日)の祭事に付随する行事だった。すでに、1877年の時点で、アイルランドの移民たちにとって、重要なレクリエーション活動となっていた。アイルランド移民のコミュニティは、オーストラリア各地でハーリングクラブを結成した。これらのクラブは主にヴィクトリア州やニュー・サウス・ウェールズ州にあったが、クイーンズランド州、西オーストラリア州、タスマニア州にも広がった⁵⁾。ハーリングの拡がりや、新しく到着するアイルランド移民によってもたらされていた⁶⁾。

以上のように、オーストラリアにおけるハーリングに関する研究は、19世紀半ばにメルボルンで宗派対立の中で行われたことやVHAの設立、オーストラリアの様々な場所で、ハーリングが行われ、クラブが結成されたことが明らかにされている。本研究では、アイルランド移民のハーリングに関する基礎的研究として、ゴールドラッシュで多くのア

イルランド移民をひきつけ⁷⁾、またVHAの設立もあったメルボルンに着目し、19世紀に行われたハーリングの全体像を俯瞰する。そのために、メルボルンの主要三紙『エイジ(the Age)』、『アーガス(the Argus)』、『ヘラルド(the Herald)』を用いる。

Ⅱ 研究の方法と史料について

本研究で扱う『エイジ』、『アーガス』、『ヘラルド』について、鈴木が19世紀のオーストラリアの新聞界に関する一連の研究⁸⁾でその性質を明らかにしている。

『エイジ』⁹⁾は、ゴールドラッシュの1854年10月17日、ジョン (John Cooke) とヘンリー (Henry Cook) のクック兄弟によってメルボルンで創刊された。1860年代初めに新聞の1部価格6ペンスを半分の3ペンスに下げ、その結果、発行部数が増大し、人々に強い影響力を与える新聞となる。その後、1863年には2ペンス、68年には1ペニーと価格を低く設定する。新聞の紙面の大きさも縮小されることになったが、発行部数は1862年2,000部だったのが、1869年には15,000部と飛躍的に拡大した。部数はその後も伸び、1879年に38,000部、

4) 聖パトリックはアイルランドの守護聖人で、現在も彼の命日の3月17日は、アイルランド島のみにとどまらず、世界各地でパレードやイベントが行われる。

5) BRACKEN, Patrick, 'The emergence of hurling in Australia 1877-1917', *Sport in Society*, Vol. 19, No. 1, 2016, pp. 62-64.

6) MOSELY, A. Philip, CASHMAN, Richard, O'HARA, John, WEATHERBURN, Hilary (ed.) *Sporting Immigrants - Sport and Ethnicity in Australia*, Walla Walla Press, 1997. p. 77.

7) 1851年のセンサスによると、メルボルンの在住者は、23,143人でうちアイルランド生まれは4,584人、ヴィクトリア州全体の場合、77,345人のうちアイルランド生まれは14,618人だった(1851年のセンサスはヴィクトリア州政府官報のデジタルアーカイブで閲覧可能 <http://gazette.slv.vic.gov.au/images/1851/V/M/1.pdf> 閲覧日2019年5月29日)。

8) 鈴木雄雅「オーストラリア新聞発達史(その4):南オーストラリア、ビクトリア植民地新聞界」コミュニケーション研究、1988年。鈴木雄雅「19世紀後半のオーストラリア新聞界(1):大衆化の幕開け」コミュニケーション研究、1990年。鈴木雄雅「19世紀オーストラリア植民地新聞の生成過程」コミュニケーション研究、2003年など。

9)『エイジ』は「政治、商業、博愛の定期刊行物」で、政治的にはリベラル紙であることを標榜した。1856年エベネツァー (Ebenezer Syme) とデイビッド (David Syme) のサイム兄弟の共同経営に変わると、彼らは『エイジ』に自由主義的性格を植えた。以降、オーストラリア・ナショナリズム、オーストラリア・プロテクションナリズムの代表格の新聞と評価されるようになる(鈴木、前掲書、1990年。)

1890年には100,000部、1899年には120,000部までになった。これは当時大英国内で対人口比をもって最大の発行部数を誇る日刊紙ということになる¹⁰⁾。

『アーガス』¹¹⁾は、1846年6月2日、W.カーが『メルボルン・アーガス (the Melbourne Argus)』を創刊、1848年9月12日に『アーガス (the Argus)』に改題、植民地の人々にもっとも人気のある新聞へと急成長する。1850年代にヨーロッパの最新ニュースを報道することで成功を遂げた。発行部数は1863年約100,000部、1892年45,000部である¹²⁾。

『ヘラルド』¹³⁾は、1840年1月3日金曜、『ポート・フィリップ・ヘラルド (the Port Phillip Herald)』としてスタートした。当初は火曜と金曜の週二回

の刊行だった¹⁴⁾。『ヘラルド』は、1840年代末、『メルボルン・モーニング・ヘラルド (the Melbourne Morning Herald, 1849-1855.9.1)』となり、創刊から約20年後の1869年に日刊の夕刊紙に転向する¹⁵⁾。発行部数は、1863年9,350部、1892年30,000部である¹⁶⁾。

本研究では以上3紙について、オーストラリア国立図書館のデジタル資料にアクセス¹⁷⁾し、ハーリングに関する記事について分析する。検索方法は、まず、オーストラリア国立図書館のデジタル資料から「デジタル化新聞とその他 (Digitised newspapers and more)」を選択し、‘タイトル’で『エイジ』、『アーガス』、『ヘラルド』を、‘分類 (Category)’で「広告 (Advertising)」、「記事 (Article)」、「詳細なリスト、結果、案内など

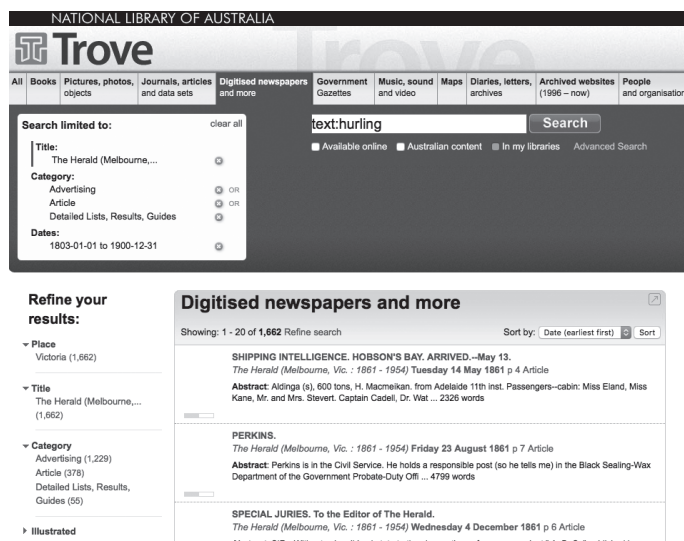


図1. オーストラリア国立図書館デジタル資料の検索画面

10) 鈴木、前掲書、1990年、107-11頁。

11) 『アーガス』の論調は反囚人派であり、スローガンのひとつに、いかなる労働力であろうとも囚人を雇うことはできない(しない)といった意味の“No Pollution”を掲げた(鈴木雄雅「オーストラリア新聞発達史(その4)：南オーストラリア、ビクトリア植民地新聞界」コミュニケーション研究、1988年、130-4頁。)

12) DARRAGH, Thomas A. ‘Circulation Figures for some Nineteenth Century Victorian Country Newspapers’, *Bibliographical Society of Australia and New Zealand Bulletin* vol. 23 no. 4, 1999, p. 240.

(Detailed Lists, Results, Gudides) 」、‘目付’を1900年までの全ての記事を検索するために「1803年1月1日」から「1900年12月31日」の期間を選択した。

次に、「text:hurling」で検索し、抽出した記事について、一覧を作成した。全ての記事を確認し、ハーリングのゲームやクラブの運営について、ハーリングのことが書かれている記事のみを詳細に分析した。ハーリングに関する記事以外で抽出された名前(Hurling, Thurlingなど)、場所(Hurlinghamなど)、動詞(hurl)のing形、テキストの読み間違い(hurtingなど)の記事は分析対象から除外した。デジタル資料の記事検索では、史料がデジタル画像化され、次にテキスト化された語句の中から指定した記事が抽出されることにな

る。したがって、デジタル画像から「hurling」とテキスト化されなかった記事は検出されない。しかし、3紙を用いること、記事の数に加えて、記事内容の検討を行うことにより、19世紀メルボルンで行われたハーリングの全体像の俯瞰が可能である。本研究ではまず、抽出された記事数を年ごとに明らかにし、記事数の変化に応じた時期区分を行う。その後、それぞれの時期に報道された記事の内容について検討する。

III 19世紀における 3紙のハーリングの記事数

各紙のハーリングの記事数は、例えば、試合の告知と結果の報道のように一つの試合について複

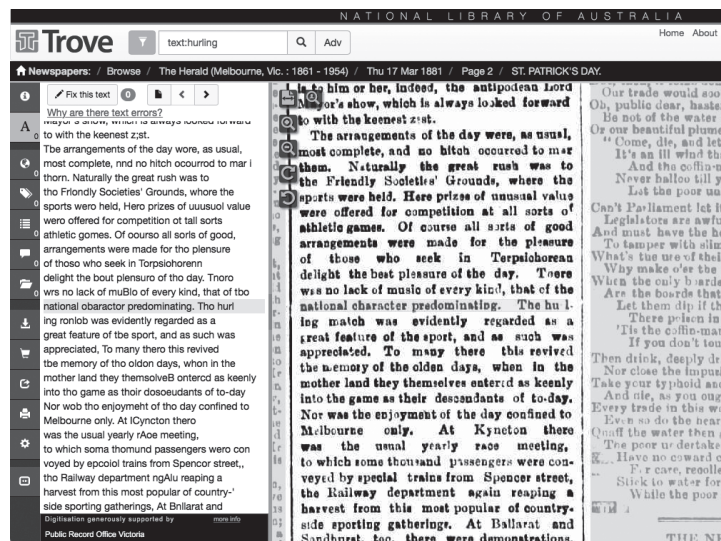


図2. 抽出されたデジタル資料の画像 (the Herald, 1881年3月17日)

13) 19世紀の半ば、『ヘラルド』は、「メルボルン・クラブや自称貴族集団の半公式の機関誌」と否定的な評価を受けていた。この頃、記者として活躍していたフィン(Edmund Finn)は、アイルランド主義、ローマ・カトリック主義だったが、『ヘラルド』の方針にバランスをもたらしていた(CANNON, Michael, “The life of Edmund Finn”, *The Chronicles of Early Melbourne 1835 to 1852*, Vol. 3., Heritage Pubs., 1976, p. 5.)。

14) 鈴木、前掲書、1988年、122頁。

15) 鈴木、前掲書、1988年、128頁。

16) DARRAGH, op. cit., p. 240.

17) <https://trove.nla.gov.au> (オーストラリア国立図書館デジタル資料)

数回の記事がある場合があり、記事の数がハーリングの練習や試合の実数の推移を直接示さない。しかし、長期間における、全体的な記事数を確認しておくことは、どの時期にどの程度ハーリングに関する報道があったのかを把握することができ、今後、研究を深めていくための基礎的資料となる。

『エイジ』のハーリングの記事は検索期間全体で553件あった。内訳を10年ごとにみると、1851-60年に2件、1861-70年に1件、1871-80年に215件、1891-1900年に15件だった。検出された記事のなかにスポーツ雑誌(*the Leader*)の広告があり、目次に「ハーリング」の項目があった(97件)。この広告は記事総数から除外した。1871-80年と1881-90年の記事数の多かった期間を年ごとにみると、1877年が84件、78年が74件、79年が83件、80年が67件、81年が59件、82年が39件、83年が34件、84年が23件、85年が14件であり、1877年以降に記事数が急増し、1880年代に入ると記事数が徐々に減少する傾向があった。

『アーガス』のハーリングの記事は検索期間全体で566件あった。内訳は1860年に3件、1861-70年に17件、1871-80年に313件、1881-90年に229件、1891-1900年に4件だった。1871-80年、1881-1890年の記事数の多かった期間を年ごとにみると、1877年が84件、78年が83件、79年が76件、80年が58件、81年が68件、82年が47件、83年が47件、84年が28件、85年が10件であり、1877年以降に記事数が増加し、1885年以降はほとんど報道されなくなる。

『ヘラルド』のハーリングの記事は検索期間全体で287件あった。内訳は1861-70年に5件、1871-80年に145件、1881-90年に118件、1891-1900年に19件だった。次の2つの記事は、

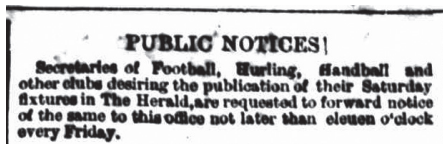


図3. 公告 (the Herald, 1881年10月1日)

記事数から除外した。1つは、「公告 (Public Notices)」で、1878-81年の間で662件あった。「公告」は、「クリケット、ハーリング、ハンドボールなどのクラブの幹事で、土曜の試合の広報を『ヘラルド』で行いたい方は、金曜の11時までにはこの事務所に連絡し、申請してください」という試合記事を募集する内容だった。2つ目は、スポーツ雑誌(*the Sportsman*)の広告が掲載されており、取り上げる競技の一つとして「ハーリング」があった(455件)。1871-80年と1881-90年の記事数の多かった期間を年ごとにみると、1872年が18件、75年が1件、76年が1件、77年が22件、78年が36件、79年が42件、80年が25件、81年が27件、82年が16件、83年が18件、84年が7件、85年が5件、86年が10件、87年が3件、88年が3件、89年が11件、90年が18件である。

以上、それぞれの新聞のハーリングの記事数をグラフにしたのが、図4である。これをみるとハーリングの記事数が1877年に急増し、80年代から減少していることがわかる。ハーリング自体が行われなくなったのか、ニュースとしての価値がなくなったのかなど記事数の変化の理由については不明である。記事数の推移から、1876年以前をハーリングの記事が見られ始める時期、1877年から1885年のハーリングの記事が多い時期、1886年以降のハーリングの記事が減少する時期の3期に分け、報道された内容について検討する。

ハーリングの記事数の年次推移

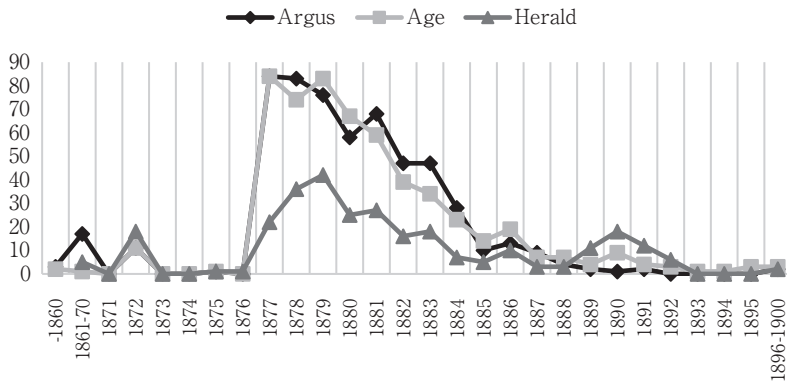


図4. ハーリングの記事数の年次推移

IV ハーリングの記事の内容

1. ハーリングの記事が見られ始める時期 (1876年以前)

この時期のハーリングの記事は、宗教的行事や祝祭日の「集まり」に付随したイベントの一つとして、ハーリングが行われていることの報道である。最も古い記事は、1860年のボクシング・デイのハーリングで、ハードル(hurdles原文ママ、ハーリングのスティックを意味するhurlsの誤植か)と色のついたキャップを用いて1チーム16人制の試合を、キュー(Kew)¹⁸⁾のキュー・ホテルのオシャナシー氏(Mr. O' Shanassy)のパドックで12時半から開始すること、他の様々なスポーツも行うことが広告として出されている¹⁹⁾。そして、ボクシング・デイの翌日にその試合の内容が報告されている。そこには、このゲームがヴィクトリアでは滅多に見ることができないこと、集まった人の多くが、アイルランド人だった

こと、試合開始が遅れて2時に始まったこと、24人の選手が選ばれ、緑のキャップとピンクのキャップに分かれて行ったことが説明されている。また、新聞の読者向けにハーリングの競技について、パドルの形をしたスティックを持つ人が行う集団ゲームであること、その中にボールが投げ入れられそれぞれのチームがボールを打ってゴールを目指すこと、ゲームは夏の楽しみというよりも冬のものであること、すねを折るようなことが起こることが説明されている。試合はピンクチームが2ゴールで勝利した。その後、他の試合が行われ、日没まで続いたと報道されている²⁰⁾。このように、「ヴィクトリアでは滅多に見ることができない」ことや競技の形式を説明していることから、読者のハーリングに関する知識が乏しく、メルボルンにおいて、ハーリングは一般的に行われた競技ではなかったと考えることができる。

¹⁸⁾ キューは、メルボルンのセントラルビジネス地区から東に5km離れた地区。

¹⁹⁾ the *Argus*, 1860年12月24日。

²⁰⁾ the *Argus*, 1860年12月27日。

1860年代の別の記事は、1862年2月1日にメルボルン・レースコースで行われるヴィクトリアン・ナショナル・スポーツ (Victorian National Sports) の広告の中に、シンティ・ハーリング・ホッケーの試合が行われる。選手はグラウンドで選抜される。ハーレーやシンティのスティックは委員会から提供されると掲載されている²¹⁾。他の記事で、ホッケー、シンティ、ハーリングというようにイングランド、スコットランド、アイルランドで異なる呼び名があるという記事がある²²⁾。スティックを使う集団でのフィールド・ゲームについて、ホッケー、シンティ、ハーリングと呼び、それぞれの競技の区別が明確でなかったのかもしれない。

1862年には、ハーリングクラブを結成する動きも見られる。1862年2月7日の『アーガス』に「求む、ハーリングの選手」というタイトルの広告が掲載された。ここには、プリンス・ブリッジ (Prince Bridge) のトゥーヘイズ・ホテル (Toohey's Hotel) で今月8日、土曜、午後6時に、目的はハーリングクラブを結成することと委員を任命することと書かれていた²³⁾。

翌1863年4月18日にも、クラブが結成される記事が掲載される。ジーロン (Geelong)²⁴⁾ のニュースで、昨夜、ロイヤル・チャーター・ホテル (Royal Charter Hotel) で、ハーリングクラブが設立されたこと、約40人が出席し、規則を作成するためと女王の誕生日に最初の試合を計画するための委員が任命されたこと、100人近くがすでにコスモポリタン・ハーリングクラブ (Cosmopolitan Hurling Club) と呼ばれるクラブのメンバーに登録するこ

とになっていることなどが書かれている²⁵⁾。この年、ジーロンのハーリングクラブの試合の報告が4件ある。5月27日の『アーガス』には、ジーロン・コスモポリタン・ハーリングクラブが1チームそれぞれ25人に分けての試合を行ったことを報告している。キャプテンを務めた2人の名前、1時に始まり4時間試合が行われ、結果は2対1だったことなどのほか²⁶⁾、『ヘラルド』には、この試合でカトリック孤児基金 (the Catholic Orphanage Fund) のために20ポンド集めたことが書かれている²⁷⁾。

次にまとまった記事がみられるのは1872年の聖パトリックの日の祝祭のハーリングである。この試合は、『エイジ』、『アーガス』、『ヘラルド』の3紙が取り上げている。この日のイベントについては、約1ヶ月前の2月15日に、聖パトリックの日の祝祭として、フレンドリー・ソサエティーズ・ガーデンズ (Friendly Society Gardens) で聖パトリック会 (St. Patrick's Society) 対ワールド (the World) でハーリングを行う広告²⁸⁾が出されている。この日の試合の広告は、3紙が断続的に掲載しており、他に聖パトリックの日の前日3月16日土曜に行うこと、聖パトリック会とHACBSの共催で行うこと、競馬やドンキーのレース、フットボール、アスレティック・スポーツが行われること²⁹⁾、アイルランドで民族運動に深く関わった経験があり、当時、ヴィクトリアの州知事を務めていたダフィ (Charles Gavan Duffy) をパトロンとしていたこと³⁰⁾などが書かれている。この聖パトリックの日の祝祭のイベントに関して、グラウンドには少なく見積もっても8,000人が集まったことなどが報じられている。ハーリン

21) the *Argus*, 1862年1月21日、1月22日、1月23日、1月25日、1月29日、1月30日、2月1日。

22) the *Argus*, 1861年12月30日。

23) the *Argus*, 1862年2月7日。

24) メルボルンから南西75kmにある港湾都市。

25) the *Argus*, 1863年4月18日。

26) the *Argus*, 1863年5月27日。

27) the *Herald*, 1864年5月26日。

28) the *Argus*, 1872年2月15日。

29) the *Age*, 1872年3月9日。

30) the *Herald*, 1872年2月20日。

グの試合に関しては42人が選出され³¹⁾、21人制で行われたこと、試合はいくぶん興味を持って見られていたが、長引く性質があり、他のスポーツを実施するため、最初のゴールが決まった後、中止となったと書かれている³²⁾。

この時期に報道された重要な記事は、アイルランドでカトリック教徒解放運動を指導していたオコンネル(Daniel O'Connell)の生誕100周年を祝うイベントで行われたハーリングで、3紙全てが取り上げている。このイベントでは、聖パトリック会とHACBSによる行進が行われ、フレンドリー・ソサエティーズ・ガーデنزでハーリングを含む様々なアイルランドのスポーツが行われた³³⁾。行進後の最初のスポーツ種目として行われたティペラリー(Tipperary)³⁴⁾対ワールドのハーリングの試合は引き分け、と結果が記されている³⁵⁾のみでその詳細は報じられていない。

2. ハーリングの記事が多い時期 (1877年から1885年)

この時期のハーリングに関する報道は、各紙とも他の時期と比べて多くなる。記事の内容は、1876年以前と同じように宗教的行事や祝祭日の「集まり」に付随したイベントの一つとして行われたハーリングについて、クラブの会議や試合、練習などの記事である。特に1877年から1880年代の前半にかけて、クラブの試合や練習に関する記事が増えた。

「聖パトリックの日」、「元日」、「ボクシング・デイ」、「イースター」の日に行われるイベントの一つ

としてハーリングが実施された。「集まり」の名称は「グランド・カトリック・ピクニック(Grand Catholic Picnic)」、「ナショナル・ピクニック(National Picnic)」、「ハイバーニアン会の新年の祭日(Hibernian Societies' New Year's Fete)」、「グランド・ナショナル・スポーツ(Grand National Sports)」など様々である。この「集まり」は、聖パトリック会やHACBSなどアイルランド系の団体によって、執り行われた。

宗教的行事や祝祭日の「集まり」以外のハーリングの特徴的なイベントが、1881年10月に行われている。それは、アイルランド本国で生じていた土地闘争³⁶⁾を支援するための資金集めのためのハーリングだった。10月7日の『エイジ』に、10月15日、フレンドリー・ソサエティーズ・ガーデنزで、指導的なアイルランド人の後援の下、入場料1シリングで、土地同盟を支援するためのハーリングの試合を行うとの広告が掲載された³⁷⁾。12日の『ヘラルド』の広告で、この試合が22日に延期されたという記事が掲載された³⁸⁾。同じ日の『エイジ』と『アーガス』では、15日開催の広告が出されている。この両紙は、翌日の13日の記事で試合が22日に延期されたことを知らせている。『エイジ』と『アーガス』が朝刊であったことに対して、『ヘラルド』は夕刊であり、12日に何らかの理由でこの試合が延期になったと推測できる。延期の理由については3紙とも言及がない。試合が開催されるまで、この試合の広告は若干の内容を変えながら掲載されている。

興味深いことに、試合当日(『ヘラルド』は試合前日)の最後の広告には、この試合の特色であっ

31) the *Herald*, 1872年3月18日。

32) the *Age*, 1872年3月18日。

33) the *Herald*, 1875年8月7日。

34) アイルランドの南西部マンスター地域にある州(カウンティ)の一つ。

35) the *Argus*, 1875年8月9日。

36) 1870年代の農業不況に端を発する地主とテナント間の闘争。1879年から82年にかけて、適正地代や農場保有権をめぐって展開される。全国的な組織、土地同盟が結成され、各地に支部が設立される。森ありさ「テナント権闘争と自治運動の時代」上野格・森ありさ・勝田俊輔編『アイルランド史』山川出版、2018年、294-7頁。

37) the *Age*, 1881年10月8日。この試合の広告を『アーガス』は10月11日から、『ヘラルド』は10月7日から掲載している。

38) the *Herald*, 1881年10月12日。

た「土地同盟への資金援助」という文言が消されている。試合について、最も詳細な広告が掲載されている『エイジ』は、ハーリングの試合が本日午後、フレンドリー・ソサエティーズ・ガーデンズで都市と田舎のクラブの間で行われる。試合は3時から開催され、メルボルン、コリングウッド (Collingwood)、ブライトン (Brighton)、エメラルド・ヒル (Emerald-hill)、バララット (Ballarat)、カイネトン (Kyneton)、ローリストン (Lauriston) のクラブから出場すると書かれている³⁹⁾。試合の翌日、23日曜は、3紙とも発行しておらず、24日の新聞には、この試合に関する記事がないため、試合の詳細は不明である。メルボルンにおいて、土地同盟を支援するためにハーリングの試合が計画され、毎日のように3紙で広告が出されたことは、試合の企画者による資金集めの熱意かもしれない。しかし、当日の広告では、そういった側面が隠され、一般的な試合の広告に留まっている。本研究で扱う史料ではその詳細を明らかにするには至らないが、土地同盟を支援するためのハーリングの試合は、アイルランド国外におけるハーリングと政治闘争が結びついた事例と考えることができる。

「集まり」のハーリング以外に、この時期、クラブの試合や練習の記事が数多く掲載されている。特に記事数が急増した1877年の報道の傾向をみると、土曜の新聞でその日に行われる試合や練習の告知が掲載される。例えば、マデリーン通り (Madeline-street) の広場で本日午後、ハーリングの試合が行われる。3時に開始する⁴⁰⁾とあるように、活動の場所と時刻が案内される。そして、翌週の月曜にその試合の概要が掲載される。記事には、試合が行われた場所、開始時間、試合の継続時間、主将の名前、何人制で行われたのか、観衆に

ついて、試合結果、試合内容などが報道された。試合が行われた場所は、広場やクリケットグラウンド、オーストラリア式フットボールのクラブが利用していたと考えることのできる楕円形のグラウンド、パドックやレースコースなどが利用されている。開始は、午後1時から3時までの間で行われ、多くは2時間、長い場合は4時間行われている。ただし、この4時間の試合は、2時間の試合を2試合実施した可能性がある。試合は前後半で行われ、ハーフタイムの休憩や後半はエンドを変えた⁴¹⁾との報道もある。試合人数は15人制から23人制まで様々で1チームあたりの人数は定まっていない。こういった報道は主に4月から12月までであったことから、ハーリングが秋から春にかけての週末のレクリエーションとして行われていたと考えることができる。

1877年の記事が急増した理由は、メルボルン・ハーリングクラブ (以下、メルボルンHC) が4月に結成され、このクラブの報道が行われたためである。『エイジ』では、1877年のハーリングに関する記事84件のうち69件が、『アーガス』では、84件のうち65件がメルボルンHCに関する記事で、両紙とも報道の約8割に及ぶ。『ヘラルド』はこの年の報道件数は22件と、『エイジ』、『アーガス』に比べて少ない。2紙はメルボルンHCの土曜の練習、近隣のクラブとの試合の告知や結果を報道していることに対して、『ヘラルド』はワルナンブル (Warrnambool) との遠征とリターンマッチに関する記事やボクシング・デイの「集まり」のハーリングの記事のみであり、メルボルンHCに関する報道は11件である。以上のように、1877年はメルボルンHCの結成があり、その練習や試合などが報道された結果、ハーリングに関する記事が急増した。

³⁹⁾ the *Age*, 1881年10月22日。

⁴⁰⁾ the *Argus*, 1877年5月26日。

⁴¹⁾ the *Argus*, 1877年9月24日。

翌1878年はハーリングを統括する組織、VHAが設立される。ブラッケンは、『アーガス』の4月17日の記事を引用し、設立会議について言及している。この会議は、植民地でのゲームの規則を一つにすることと、ハーリングクラブ協会を結成することを目的に招集され、メルボルン、カイネトン、コリングウッド、ブライトン、プラーラン (Pahran)、リッチモンド (Richmond) のクラブの代表者が出席した。協会を設立すること、その名称をヴィクトリア州ハーリングクラブ協会 (the Victorian Hurling Club Association) とすることを決定した。また、規則を作るための暫定委員会が設置されたことなどを指摘している⁴²⁾。

実際、VHAについてどのような報道が行われたのか。1878年、VHAに関する記事数は『エイジ』が1件、『アーガス』が3件、『ヘラルド』が0件である。統括組織設立の予備的な会議について、4月10日水曜の『アーガス』で、植民地の様々なハーリングクラブの代表者による会議が本日、午後2時半にディロンズ・ロイヤル・オーク・ホテル (Dillon's Royal Oak Hotel) で開催される。この会議の目的は、現在のハーリングのルールを改訂することと、クリケットやフットボールと同様にハーリングの協会を形成することを検討することであるとの記事が出た⁴³⁾。ところが、この会議は、コリングウッド、リッチモンド、ハイデルバーグ (Heidelberg)、ブライトンの各クラブから代表者が出席したが、メルボルンや他のクラブの代表者が欠席したため、会議の目的のための明確な答えが出ず、会議が月曜7時に延期になった⁴⁴⁾。

次のVHAに関する報道は4月17日水曜、『エイジ』と『アーガス』に掲載される。会議の内容は前述したとおり、ブラッケンが言及している⁴⁵⁾。2紙を

比較したところ、協会の名称について、『アーガス』がヴィクトリア州ハーリングクラブ協会、『エイジ』がヴィクトリア州ハーリング協会と若干異なるものの、記事の全体的な内容はほとんど同じである。また、『エイジ』には、ハーリングが普及したことにより、ヴィクトリア州全体で一つの規則を検討することになった⁴⁶⁾と書かれており、ハーリングのクラブやプレーする人が増加したことがうかがえる。VHAの設立はクリケットやフットボールと同様の協会の設立を目指したものの、これ以降、VHAに関する報道は見られない。しかし、例えば、プラーラン・ハーリングクラブの会議では、「VHAの規則が読み上げられ、採択された」⁴⁷⁾とあり、競技規則の面でヴィクトリア州のハーリング界に影響を与えている事例が確認できた。

最後に、1877年から1885年の記事数の増加した時期の1年間を通しての報道の傾向をみると、3月頃に聖パトリックの日の祝祭、その後、イースターの「集まり」でのハーリングに関する記事が見られる。4月から6月にかけて少しずつ、各クラブによるハーリングのチーム内での試合や対外試合が増加し、11月頃まで、ほぼ毎週、ハーリングの報道がある。そして、ボクシングデーや元日の「集まり」に行われるハーリングに関する報道が繰り返される。1883年には、1877年の記事数が急増した理由であるメルボルンHCの報道が全くなくなる。これが、この時期に記事数が減少した理由である。史料の限界からメルボルンHCのその後の活動がどのように変化したのか、その実態は不明である。

3. ハーリングの記事が減少する時期 (1886年以降)

アイルランド本国では、1884年11月にハーリン

42) BRACKEN, op. cit., p. 64: the *Argus*, 1878年4月17日。

43) the *Argus*, 1878年4月10日。

44) the *Argus*, 1878年4月11日。

45) BRACKEN, op. cit., p. 64.

46) the *Age*, 1878年4月17日。

47) the *Age*, 1878年5月7日。: the *Argus*, 1878年5月7日。

グを統括する組織であるGAAが設立され、その活動を開始する。ブラッケンによると、シドニーでは1885年にGAAのルールを採用したクラブが結成されたことを報告している⁴⁸⁾。ブラッケンの研究では、1886年から1900年までのハーリングに関して、オーストラリアで行われた試合の報道をいくつか抽出し、報告している。その内容は、シドニーのあるニュー・サウス・ウェールズ州や新たにゴールドラッシュのあった西オーストラリア州であり、メルボルンのハーリングに関する指摘はない⁴⁹⁾。

3紙によるこの時期の記事の内容は、これまで同様、聖パトリックの日や元日の「集まり」のハーリングがある。「集まり」のハーリングは、例えば、聖パトリックの日の場合、これまでと同様、アスレティック種目とともに行われている。記事には、ハーリングの試合が行われたことが書かれているが、その詳細についての記述はない⁵⁰⁾。

また、秋から春にかけてのクラブによる試合や練習の記事がある。ただし、その報道は、毎週のようにあるのではなく、年に数回に留まっている。特に1886年から1892年にかけては、主にエメラルド・ヒルクラブ (Emerald Hill Club) とクリフトン・ヒルクラブ (Clifton Hill Club : 1892年からハープ・アンド・シャムロック (Harp and Shamrock) に改称) の活動の報道が中心である。この時期の特徴ある記事の一つは、メルボルンとシドニーの異なる自治植民地間の試合が計画されたことである。メルボルンの主要なハーリングクラブからシドニーハーリングクラブの会長への手紙で、初の植民地間の試合をシドニーで開催したいと申し出があり、それを受け、現在グラウンドを調整していると報道されている⁵¹⁾。この試合が実

施されたという報道は管見の限り、確認することができなかった。

別の特徴ある記事として、一つのグラウンドに複数チームが集まって数試合が開催されたことである。1887年9月7日、サンドハースト (Sandhurst)、南メルボルン (South Melbourne)、バンガリー (Bungaree)、ローリストン、マイヤーズ・フラット (Myer's flat) の5つのチームがサンドハーストに集まり、ローリストンが南メルボルンに2対0で勝利、バンガリーがサンドハーストに4対0で勝利、バンガリーがマイヤーズ・フラットに1対0で勝利し、バンガリーとローリストンの優勝決定戦が行われた。最終的に、引き分けで試合が終了している⁵²⁾。1889年にはこのような試合の報道がいくつかある。5月7日の『ヘラルド』には、5月24日からハーリングのシーズンが始まること、その日に植民地の主要6クラブ (ローリストン、オーモンド (Ormond)、マイヤーズ・フラット、サンドハースト、ベンディゴ (Bendigo)、エメラルド・ヒル) としてこれに加えてマムズベリー (Mamsbury) とカンガルー・フラット (Kangaroo Flat) によるトーナメントがサンドハーストで開催されることが告知されている⁵³⁾。実際、5月24日には、サンドハーストでエメラルド・ヒル、サンドハースト、ベンディゴ・ユナイテッド (Bendigo United) の3つのクラブが集まった⁵⁴⁾。しかし、参加人数の関係からか、エメラルド・ヒルとの試合をサンドハーストとベンディゴ・ユナイテッドの合同チームが行っている。当初、シーズン開幕期に予定されていたと考えられる試合が1889年8月21日に行われている。この試合はバック・クリーク (Back Creek) のクリケットグラウンドで、バンガリー、ローリストン、エメラルド・ヒル、マイ

48) BRACKEN, op.cit., p. 66.

49) BRACKEN, ibid., pp. 62-73.

50) the *Age*, 1886年3月13日、1891年3月18日、1895年3月19日、1897年3月18日。: the *Argus*, 1886年3月18日、1887年3月18日。また、1891年3月16日の聖パトリックの日の広告に

は、ハーリングが行われることが掲載されているが、3月18日の聖パトリックの日の記事には、「競走、自転車乗り、アスレティック競技が行われた」と書かれており、ハーリングの試合に関する言及はない: the *Herald*, 1886年3月17日、1891年3月16日。

51) the *Argus*, 1886年4月5日。

ヤーズ・フラット、ベンディゴ・ユナイテッドによって行われた。各試合は1時間で、優勝はバンガリー、トロフィーと賞金の15ギニーを手にしたことが報道されている⁵⁵⁾。このように、複数のクラブが参加しているため試合時間を短く調整していることや優勝クラブにトロフィーと賞金が贈呈されていることがわかる。

この時期のハーリングに関する報道は減少しているものの、新たなクラブが結成された記事がある。1888年9月20日の『エイジ』と『アーガス』によると、アイリッシュ・ナショナル・フォレスターズ・フレンドリー会 (Irish National Foresters' Friendly Society、以下INFFS) のメンバーによって、エリザベス通りのコマーシャル・ホテル (Commercial Hotel) でアイリッシュ・ナショナル・フォレスターズ・ハーリング・アンド・アスレティッククラブ (Irish National Foresters' Hurling and Athletic Club) が設立され、80人以上のメンバーが入会した。クラブのカラーがオレンジと緑に決定し、役員が選出された。最初の練習試合が9月29日の土曜午後3時、アルバート・パーク (Albert Park) で行われると書かれている⁵⁶⁾。そして、予定通り、9月29日からクラブの活動を開始し、メルボルンHCとの試合を行い、共に6ゴールを記録している⁵⁷⁾。同じナショナル・フォレスターズを名前につけるクラブが翌1889年12月に結成される。『ヘラルド』によると、クリフトン・ヒルでマイケル・ダヴィット・アイリッシュ・ナショナル・フォレスターズ・ハーリングクラブ (Michael Davitt Irish National Foresters' Hurling Club) と称するクラブが結成され、元日にフレンドリー・ソサエティーズ・ガーデンズでハーリングの試合を

するための調整を行うと書かれている⁵⁸⁾。同じ、ナショナル・フォレスターズの名称だが、前年に結成されたクラブが設立会議を開いたエリザベス通りのコマーシャルホテルとクリフトン・ヒルは約5km程度離れており、1888年にINFFSのメンバーによって結成したクラブとは別の新しいハーリングクラブだと考えることができる。

協会の結成に関して、1889年7月16日にサンドハーストのハーリングの選手たちがハーリングの協会を結成しようとしている。彼らは、規則を起草し、植民地の全てのクラブに賛否を問う⁵⁹⁾ことを予定していた。その後、この件に関する報道は見られない。こういった協会結成の動きは、この時期のヴィクトリア州において、GAAやヴィクトリア州ハーリング協会の影響が見られないことを示している。

V | おわりに

本研究では、メルボルンの主要3紙を史料として、19世紀にメルボルンで行われたハーリングの全体像を俯瞰するために、記事数の推移と記事の内容を検討した。

ハーリングに関する記事は、1860年頃から少しずつ見られる。1877年に記事数が急増するものの、1880年から徐々に減少を始め、80年代半ばには年に10数点から数点、1890年代後半には全く報道のない年もあるなど、ほとんど見られなくなる。

1876年以前のハーリングの記事は、HACBSなどアイルランド系の団体が後援する祝祭日を祝う「集まり」で行われたことが書かれている。特に聖

52) the *Argus*, 1887年9月8日。

53) the *Herald*, 1889年5月7日。

54) the *Herald*, 1889年5月24日。

55) the *Age*, 1889年8月22日、the *Argus*, 1889年8月22日。

56) the *Age*, 1888年9月20日。the *Argus*, 1888年9月20日。

57) the *Argus*, 1888年10月1日。

58) the *Herald*, 12月18日。

59) the *Herald*, 1889年7月16日。

パトリックの日の「集まり」でのハーリングは19世紀後半を通して、継続して行われている。

1877年のハーリングの記事の急増は、メルボルンHCが結成されたことによる。記事を見ると、ハーリングが秋から春にかけての週末のレクリエーションとして行われており、シーズン中はほぼ毎週、練習試合や遠征、クラブの会議などが報道されている。また、翌1878年には、先行研究で指摘のあったVHAの設立⁶⁰⁾に関する記事がある。協会の詳細な活動は報道されていないが、ヴィクトリア州の複数のハーリングクラブが集まり、競技規則を統一することを試み、同時代メルボルンにあったフットボールやクリケットの統括組織のような協会の結成を目指していた。

1880年以降、ハーリングの記事は減少していく。しかし、祝祭日の「集まり」のイベントの一競技としてクラブ間の対戦が行われることや、アイルランド系の団体によるハーリングクラブの結成が報道されるなど、メルボルンでハーリングが継続して行われている形跡がみられる。また、複数クラブが集まって、賞金やトロフィーが贈呈される組織化された大会も行われている。

3紙には、ハーリングについて、アイルランド産の競技で、アイルランドの民族性を指摘するような記事がみられた。しかし、アイルランド本国で生じたようなハーリングと政治闘争の関係をとり上げる記事はなかった。オコンネルの生誕100周年祭や土地同盟への資金援助を集める為のハーリングの試合の開催、クラブの名称に土地同盟の指導者であるマイケル・ダヴィットを冠するなど、メルボルンにおけるハーリングとアイルランド・ナショナリズムの結びつきが断片的にみられるにとどまる。

以上のことから、19世紀のメルボルンのハーリングは、1860年代頃はアイルランド系の人々が集まる場で、集まった人々を分けてチームを作り、競技を行う形式から始まり、1870年代半ば以降には、クラブが結成され秋から春の週末のレクリエーションとして、そして、1880年代半ば頃には組織化された大会が行われるなど、身体的な娯楽からスポーツへと遷り変わる様相がみられた。また、新聞にはハーリングがアイルランド産まれ競技であり、アイルランド関係の団体によって執り行われていることが書かれているが、本研究ではアイルランドにおけるGAAと独立運動の関連⁶¹⁾のような、反英国を示す極端なアイリッシュ・ナショナリズムの存在は確認できなかった。

【附記】

本研究はJSPS科研費16K16519の助成を受けたものです。

滋賀大学経済経営研究所の西埜知佐さんには3紙の検索記事の一覧を作成していただきました。記して感謝申し上げます。

60) BRACKEN, op. cit., pp. 62–73.

61) CRONIN, Mike, *Sport and Nationalism in Ireland: Gaelic Games, Soccer and Irish Identity Since 1884*, Four Courts Press, 1999.

The Study of Hurling in Melbourne during the 19th Century

from Articles of the *Age*, the *Argus*, and the *Herald*

Masayuki Enomoto

The purpose of this study is to reveal the game of hurling played by Irish immigrants in Melbourne during the 19th century. The historical materials used in this present study are three newspapers, namely the *Age*, the *Argus*, and the *Herald*.

The present study divides the time frame in question into three periods based on the number of articles. The first period is before 1876 when articles about hurling began appearing. The second period extends from 1877 to 1885 when the number of articles about hurling increased. And the third period is after 1886 when articles on hurling decreased.

In the first period, hurling was one of the events played at holiday gatherings like St. Patrick's Day. In the second period, some hurling clubs were founded with matches played against each other. These clubs also founded the Victorian Hurling Association in 1878. During the third period, the coverage of hurling clubs and hurling at gatherings was reduced, but hurling matches continued to take place.